

## 未来予想図

### おもしろ部活動（同好会）・公立編

今号は「おもしろ部活動（同好会）・公立編」を載せてみました。下の資料は、「北海道高校ガイドブック（北海道学力コンクール事務局）」を参考に記しておりますが、部活動（同好会）は指導者の転勤や入部生徒の動向等により廃部になったり、休部になることもあります。詳しくは、各高校のHPや発行物等でご確認ください。

ゴルフ（札幌南）、弁論（札幌旭丘）、創画（札幌旭丘）、マンドリン（札幌月寒）、ワンダーフォーゲル（札幌藻岩、札幌北、札幌琴似工業、札幌工業）、ユネスコ・ボランティア（札幌藻岩）、創作（札幌平岸）、数学（札幌平岸、札幌北、札幌国際情報）、フォークソング（札幌東）、競技かるた（札幌東）、国際（札幌白陵）、レスリング（札幌東豊、千歳北陽）、世界史研究（札幌北）、地球惑星科学（札幌北）、物理化学（札幌北）、ワープロ（札幌国際情報、石狩翔陽、千歳、啓北商業）、商業（札幌国際情報、江別）、情報技術（札幌国際情報）、お箏の会（札幌国際情報）、なぎなた（札幌国際情報）、アウトドア（北広島）、少林寺拳法（札幌北陵、大麻）、バトントワリング（札幌英藍）、郷土研究（札幌英藍）、ピア・サポート（札幌英藍）、ボート（石狩翔陽）、太鼓（石狩翔陽）、農業（当別）、ウエイトリフティング（札幌あすかぜ、札幌琴似工業）、家庭（当別、札幌手稲）、邦楽（札幌西）、鉄道研究（札幌工業）、オーケストラ（札幌西）、ホッケー（江別）、ビジネススタディクラブ（千歳）、クイズ研究（千歳）、ボクシング（恵庭南、札幌工業）、クロスカントリースキー（恵庭南）、男子新体操（恵庭南）、簿記（啓北商業、札幌東商業）、ボウリング（札幌東商業、札幌工業）、中国語（札幌東商業）、ロボット研究（札幌琴似工業）、メカ技巧（札幌工業）、建築研究（札幌工業）、電気研究（札幌工業）、土木研究（札幌工業）、現代文化研究（札幌工業）、和太鼓伝統芸能（札幌大通）、グローバル（札幌大通）、ビジネス（有朋）

地方の高校になりますが、次のような部活動（同好会）もあります…

馬術（浦河）、スピードスケート（苫小牧工業、釧路工業）、ドレスメーカー養成（釧路江南）、蝦夷太鼓（釧路江南）、手話（室蘭栄）、ものづくり研究（北見工業）、茶華道（小樽水産、深川西）、手話・点字（美唄聖華）、地域連携（三笠）、相撲（小樽水産）、ペン画（小樽桜陽）、ホルスタイン（大野農業）花と暮らしを楽しむ（函館水産）

## ●札幌国際情報高校のなぎなた部

表面（おもてめん）に記したように札幌国際情報高校にはなぎなた部があります。

道内になぎなた部があるのは札幌国際情報高校だけだといいます。そのため、全国大会を出場者を決める「全道大会」という名の校内選手権が行われるといます。

（以前、札幌国際情報高校の先生が本校へ来校され教えてくれました。）

## ●グローバル

表面（おもてめん）に記したように札幌大通高校にはグローバル部があります。

「グローバル」とは、「グローバル（世界規模）」と「ローカル（地域）」を組み合わせ、世界的な視野を持ちながら地域の特性や課題に即して行動することを意味する造語です。

教育などでは、「地球規模で考え、地域で実践する。」活動となります。

## ○coffee break (質量パーセント) 濃度の計算

中学校1年生理科では、「(質量パーセント) 濃度」の学習を行い、濃度を求める計算問題を解くこととなります。

以前、生徒たちへ濃度を求める計算問題を出題したところ、想像以上にできがよくありませんでした。そこで、濃度計算のできがよくないのは本校生徒に限ったことなのか、それとも何か要因があるのかを調べてたところ、面白い(?) データを入手しました。

(中学3年生対象の) 全国学力・学習調査に理科が加わった2012年、「10%の食塩水を1000gつくるのに必要な食塩と水の質量を求めなさい。」という問題が出題されました。

正解は「食塩100g、水900g」ですが、全国の正答率は52.0%でした。

実は1983年に、(中学3年生対象の) 全国規模の学力テストが行われ、「10%の食塩水を100gつくるのに必要な食塩と水の質量を求めなさい。」という全国学力・学習調査とほぼ同じ問題が出題されました。

正解は「食塩10g、水90g」ですが、全国の正答率は69.8%でした。

約30年間で濃度計算のできる生徒の割合が20%近く下がったことがわかります。

濃度(%)計算のできがよくないのは本校生徒に限ったことではなく、全国的なことであることはわかりましたが、「このままでよいのか?」と強く感じました。

参考文献 桜美林大学教授 芳沢光雄

「%」が分からない大学生 日本の数学教育の致命的欠陥(光文社新書)

この本では「2億円は50億円の何%か(正解は4%)」を答えられない大学生が多々いることを指摘されております。要因の1つとして、「2015年度の全国学力・学習調査の算数B(小学6年)で出題された割合(%)を求める問題の正答率が13%と極端に出来が悪かったにも関わらず、マスコミ等が取り上げることもなかったため、児童たちは中学、高校、大学とほとんど学力が改善されずに進学したことがあげられる。」と考えられております。